

あきる野民報

発行責任者/松平重幸 〒197-0826牛沼243-9

TEL&FAX 558-0718

住民の利益をまもり、
「住民こそ主人公」の
あきる野市政実現をめざして！

2010.7.11 No.536(毎月2回発行)

日本共産党あきる野市委員会は次の見解を発表しました。

最終盤の立川駅頭に志位委員長来る！

菅首相のいう消費税増税は「財界大企業のため」と鋭く批判！



最後に登場した志位委員長は、菅首相が発言している強い経済に関連した法人税が、ヨーロッパに比べても高くないことを具体的にのべて、消費税増税が、財界大企

志位委員長が菅首相の発言をつぎつぎと論破

候補者がそれぞれ熱気をこめて訴え、さすが日本共産党の候補者と、万雷の拍手を浴びていました。

開始前から聴衆がぐんぐんと増えだし、歩道もデッキも聴衆で溢れ、何事かと一般通行者も立ちどまり、動きがとれない状態になりました。

東京選挙区候補の必勝と日本共産党の躍進をと、選挙最終盤の七月二日夕、志位委員長が立川駅頭で演説を行いました。

歩道もデッキも波の人の声「消費税増税許すな」

あきる野から参加した多くの方が感想と感動を口々に語りました。
「大変分りやすかった」
「消費税増税と引替えに大企業減税ありきというのがよく分かった」
「ギリシャの財政危機の原因の具体的内容の指摘

感動の言葉つぎつぎと——あきる野からも多数参加

で、民主党の宣伝のウソがよく分った」
「東京選挙区の当落は、都民の肩にかかっていると言われ、その通りと思ひ、私たちの責任が重いな、頑張らなきゃ」と感じたとの感想がこもこも語られていました。

「低所得者に還付する」「いまのままだとギリシヤみたいになる」などの菅首相の発言のインパクトを、具体的に分りやすく暴露し、万雷の拍手をうけました。

業の法人税減税の「穴うめ」のためだと指摘しました。消費税増税に対する国民の怒りを抑えるために、「低所得者に還付する」

東京選挙区は大激戦 全国から期待の声が

最後に志位委員長は「全国北海道から、沖縄まで、どこに行っても東京選挙区を必ず勝たせてください」と言われます。そのことができるのは都民のみなさんです、と訴えました。



なかなか成長しないように感じていたむすこも、ついに6年生。このごろめっきりたのもしい。

格闘ごっこ好きになちびにキックのお手本を披露。びしっとかっよく決めたキックはなかなかのもの。ふと見れば、兄さんのTシャツには、食べこぼしたらしい米粒がびったり…。

ちびをお風呂に入れて、きれいに洗ってくれます。ちびはピカピカ、「さすがお兄さん、ありがとうね」とむすこを見ると、ズボンが後ろ前…。

単純に成長だけを感じさせないのは、彼の才能でしょうか。たのもしいだけでなく、たのしい日々です。

(10.7.11)

連絡先は☎550-6674

野良望

日本プロレタリア文学運動が生んだ記念すべき作家に小林多喜二がいますが、俳句の世界にも反戦思想を貫き通した渡辺白泉という俳人がいます。
◆戦争が廊下の奥に立って二六才の時の無季俳句(季語が入らない)です。日本は満州事変・日華事変と進展やがて全面的日中戦争に突入しますが、軍国主義の権力に戦争批判を口に出せない時代、国民に厭戦思想を吐露した俳句です。
◆「銃後といふ不思議な町を丘で見た」この句も無季俳句です。国民の大部分が戦争に疑問を持ちながらも権力に抵抗できず、成り行きに従っている運命を「不思議な町」と表現しています。「丘」は白泉が常に高い視野で社会を見ていた姿勢の現れです。◆夏の海水兵ひとり紛失す「戦争での兵は人でなく物でしかありません。死を「紛失」という言葉によって比喩を込めた痛烈な批判が句にあります。特高警察は「京大俳句」同人であった白泉を検挙、二七才で投獄され執筆禁止を言い渡されました。(木崎)

読者のひろば 投稿

消費税増税は職人の首が... 東京土建あきる野2分会長長平澤源司
職人の手間は、一に十五日も働けない。日一万五千円とします。消費税の増税で、経費は上がる。生活費は上がる。でも手間は上がる。でもないのです。それどころか、仕事がないのです。一カ月は「NO」です。

消費税増税は「日本」の命取り 西井 絵秋川在住
消費税増税は国民の生存権をうたった憲法に違反する。食費にまでかけることは、低所得者を死に追いやること。年間3万人を超える自殺に拍車をかけるという点では、経済危機を乗り越えるためには、英米の民に向けて、エッセイや意見等なんでも。

横田基地の撤去を求める

西多摩の会が

第3回定期総会を開催

《日時》

7月31日(土)

午後1時30分〜4時

《会場》

羽村コミュニティセンターホール

《第一部》

記念講演・川田忠明さん
日本平和委員会常任理事
日本原水協理事

《第二部》 定期総会



昨年9月の座り込みより

あきる野東地区後援会と党が
参院選勝利へ交流集会を開催



6月26日

あきる野東地区後援会と党は合同で六月二十六日、参院選勝利に向けた交流集会を開きました。告示を過ぎたの市民との対話の様子や山根議員の市政報告も加わり、参院選終盤に向けて「深く頑張ろう」という声になりました。二十二人が参加しました。

山柳

マスコミも官房機密もあつたか
金満と貧困仕分け誰がした
正論はいつも受けなけりな
民主党近の仲間は自民党

蕎麦湯 蕎麦湯 松籟坊 松籟坊

絵手紙/寺門静子さん 雨間在住



2010.6.10

歴史探訪

第116回 番外編・一支国の遺跡 ②



岩波市立一支国博物館

三世紀末、晋の陳寿が撰した三国志のうち魏書東夷伝の末尾にある倭人の項を「魏志倭人伝」と呼んでいます。倭人に関するものとしては最古の資料として価値は高いのですが、伝聞の誤り・誇張・誤字があり、邪馬台国へ来なかつたのではという疑いもあります。一支国も原典では一大国と記されていて、明らかかな間違いと云われま。しかし倭人の風俗が詳細に記述されていて、入れ墨・髪形・衣服・喪礼など、古代日本の資料として貴重です。邪馬台国の道程で方向・距離の真偽が不確かなため、様々な行程説が論議されてきましたが、対馬―一支―伊都―奴国までは確実な行路とされています。「魏志倭人伝」の一部のコースを紹介してみます。

「...（前略）千里で対馬国に到着する。この大官を卑狗、副官を卑奴母離という。ここは絶島で広さは約四千余里四方である。土地は山が険しく深林が多く、道は細い獣道のようなものである。戸数は千戸余り。良田がなく民は海産物を食べ自活している。船で南と北に出で交易している。又、南に一海を渡る。千里余り。この海を瀾海と言う。一支国に到着する。これも大官を卑狗、副官を卑奴母離という。広さ三百里四方。竹や林が多く三千戸の家がある。田地があるが耕作が足りず、やはり海で交易をして生活をしている。一海を渡り末盧国へ（後略）」（続く）
草花・木崎秀治

俳句

（季語「新茶」）新しい茶が売りに出される頃は、誰れもが初夏を感じます。味も美味と同時に、自然豊かな季節の味と言えます。「朝の用なかれと思ひ新茶波む（秋桜子）」

十葉やいつもの猫が塀の上
（淑子）
新茶淹れ湯呑揃へる手の軽し
（富）
帰り路のひとしおの雨五月間
（るり子）
夏蝶や茶店に銀の卓と椅子
（つや）
カテキンの甘きのごし新茶くむ
（照代）
なめくじら夜明けに赤い花を食へ
（かほる）
香り立つ白磁の湯飲新茶かな
（勝代）
扇ごと終へてだんごと新茶かな
（静子）
酒樽の空の三つや祭終へ
（秀治）